

リプロダクティブ・ライツに関する政策の 国際比較——合衆国・東欧・韓国・日本

(課題番号17530105)

平成17年度 ～ 平成18年度 科学研究費補助金補助金 基盤研究 (C)
研究成果報告書

平成19年3月

研究代表者 岩本美砂子
(三重大学 人文学部 教授)

は し が き

本研究は、2006年7月に福岡で開催された「世界政治学会（IPSA）大会」（3年に1度開催、日本では初めて）において、開催国責任のパネルの1つであった **Comparative Reproductive Policy** のパネルを持つことを念頭に、合衆国、東欧、韓国、日本（さらに適宜西欧諸国）におけるリプロダクティブ・ライツ政策の国際比較をおこなうことを目的としたものである。

2005年度においては、外国研究者と連絡を取りつつ、日本におけるクリティカルな時期である昭和20～30年代の人工妊娠中絶政策の実態をさぐるために、この時期に人工妊娠中絶を受けた可能性がある高齢女性を対象としたアンケートを企画立案した。アンケートは金沢大学法学研究科博士課程学生の塚原久美、長崎純心大学現代福祉学科講師の伊佐智子の協力を得て1000通送付し、270通の回答を得た。そのうち7割強は対象年代の女性からのものであったが、このようなアンケート自体非常に少ないため、昭和30年代のおわりに15歳未満であった若い層の回答も分析に含めることにした。

2006年度は、前年から予定していたマリアン・リーフ・パリーの来日取り消しによって替わりの報告者を探すことになり、福岡のIPSAと北九州での国際シンポジウム「リプロダクティブ・ライツ政策の国際比較：米・韓・日・東欧」ではジョイス・ゲルブ（他用で来日中）に交代し、東京のシンポジウムではエリザベス・コップスの日本の医薬行政と女性のリプロダクティブ・ライツに関する報告を得ることができた。他方でダグ・ステンヴォールは2005年度中に2006年度7～9月の間、関西大学の客員研究者として受け入れられることになっていたが、交通事故のため来日は1ヶ月半、後方に切り縮められることになった。しかし彼のペーパーは完成していたため、7月の福岡・北九州・東京の3会場ともで代読が行われた。「東欧」を視野に含めることが出来、我々の分析やフロアの研究者・一般市民に幅広い理解を提供できた。

ドロシー・マクブライド論文、ダグ・ステンヴォール論文、ビュン・ファースン論文ともにほぼ完全な和訳をつけて、北九州および東京で通訳がテクニカル・ターム等でつまづかないよう、万全を期した。IPSA研究パネル、市民向けシンポジウムともに支障なく実施でき、好評であった。本報告書に、英文・日文の両方を収録した。

また、ドロシー・マクブライド編著(Dorothy Stetson 名義)の *Abortion Politics, Women's Movements, and the Democratic State: A Comparative Study of State Feminism*, Oxford Univ. press, 2001 に関しても、合衆国と西欧の5カ国の分析を抄訳するよう塚本久美さんに依頼を行い、政治学的な観点から手を入れた。本報告の最後に収録した。

IPSAのペーパーと、*Abortion Politics, Women's Movements, and the Democratic State*の抄訳の間に、岩本が北九州で行った基調報告を発展させた「日本における政治とリプロダクティブ・ライツ」と、本研究に平行して行っていた東北大学21世紀COE「男女共同参画の法と政策」の研究の一環として求めに応じて書いた、「多様な女性とリプロダクティブ・ライツ」を収録した。2006年度の『日本政治学会年報』第1号に書いた「家長長制と

ジェンダー平等」はドメスティック・バイオレンスを手がかりに、日本における少数集団の女性の権利をめぐる政策について考察したものだが、その「マイノリティ女性」という視角をリプロダクティブ・ライツ政策にも当てはめたものである。

日本においては障害のある女性のリプロダクティブ・ライツが長い間（1948～1996年）優生保護法によって制約されてきたことについては、書籍やビデオ（「忘れてほしゅうない」）が出ているが、今後の十全な保障のための権利へのアクセスの保障の必要について述べ、言語にハンディを負ったりマジョリティの日本女性と宗教的バックグラウンドが異なったりする外国籍女性への権利保障に必要な政策等に関して提言を行った。また1948年に人工妊娠中絶の多くを合法化した日本は、この面では「進んで」いたかもしれないが、経口避妊薬ピル（低容量ピル）の解禁が1999年と世界最終盤になり、また旧優生保護法を引き継いだ母体保護法（1996～）においても「配偶者の同意」が文言上必須となっており、女性のみで中絶が受けられるとする今日の国際的リプロダクティブ・ライツの水準に大きく遅れてしまった。それだけでなく、厳密に運用されると「望まない出産」を強いられる女性が出てくる危険性があり、また「母体保護法」によって刑法墮胎罪を免除されないケースとの線引きが行政通達であって恣意的な変更の可能性があること、「経済的理由」が具体的に規定されていないため、ここでも恣意的な締め付けの可能性があること、そして男女共同参画第一次プランから第二次プランへの移行の中で、現政府がリプロダクティブ・ライツの国際水準よりも既存の国内法遵守にシフトしたことを強調した。

未だ比較の視点を強調した論文を書き下ろしてはいないが、これらの2論文の中に、国際比較研究によって培った、「何が避妊で何が中絶かの線引きは、時代と文化・政策によって可変的であり、唯一の正解はない」「何が合法で何が非合法かは、時々の政府によって暫定的に定められているにすぎず、『妊娠する・しない』『出産する・しない』に関する女性の決定権を尊重しようという勢力と、反対に排除しようとする勢力との力関係や、それが作り出す討論の枠組みに依存する」という視角を十分に生かしたつもりである。

謝辞を述べるべき方々は多い。「IPSA 福岡大会」においてローカル・セッションのうち2つをジェンダー・セッションにして頂いた、日本政治学会の中でのIPSA担当の先生方、IPSAのWomen&Politics研究委員会の皆様（日本人は含まれていない）、北九州アジア女性交流研究フォーラムの皆様、ダグ・ステンヴォルの来日を助けて頂いた関西大学法学部の関係者の方々、とくに大津留（北川）智恵子さん、ポーランドに関する訳文を点検頂いた、東京大学の小森田秋夫先生、東京シンポジウムの地元本部として様々な仕事をこなして頂いた大海篤子さんとバックアップに当たって頂いたその夫君、企業の社会的責任に積極的な万有メルク製薬の皆様、特にエリザベート・コップスさんの熱心な貢献、JAWS（日米女性政治学者シンポジウム）のアメリカ側の皆様——子どもが小さいなどの理由で今回来日できなかった方々を含む精神的な援助——、「多様な女性とリプロダクティブ・ライツ」の執筆機会を頂いた東北大学21世紀COE「男女共同参画の法と政策」関係者の皆様、特に多くの知的刺激を与えて頂いた「クラスターA：政治」の先生方などなどである。あまりに多いので、ここで筆を置かせて頂く。割愛させて頂いた方々にも、心よりお礼を述べたい。

研究組織

研究代表者 : 岩本美砂子 (三重大学 人文学部 教授)

研究協力者 : Dorothy E. McBride (フロリダ・アトランティック大学名誉教授)
Dag Stenvoll (ベルゲン大学 (ノルウェー) ロックン・センター
研究員 政治学博士)

ビョン ファースン Wha-Soon BYUN, PARK
(韓国女性開発院上級研究員 人口と家族社会学博士)

Joice Gelb (ニューヨーク市立大学教授)

Elizabeth J. Cobbs (万有メルク製薬 公共・工業政策担当上級部
長、社会学博士)

交付決定額

	直接経費	間接経費	合計
平成 17 年度	1,100,000	0	1,100,000
平成 18 年度	2,500,000	0	2,500,000
総計	3,600,000	0	3,600,000

研究発表

(1) 学会誌等

岩本美砂子、日本のドメスティック・バイオレンス防止法(2001年)制定をめぐる政治過程、
法経論叢 (三重大学社会科学学会) 23 巻 1 号、2005 年 9 月

岩本美砂子、自治体におけるジェンダー問題を考える、都市問題、97 巻 1 号、2006 年 1 月

岩本美砂子、家父長制とジェンダー平等、日本政治学会年報、2006-1、2006 年 11 月 10 日

岩本美砂子、日本における女性政策ナショナルマシナリーの分析、法経論叢 (三重大学社
会科学学会) 24 巻 2 号、2007 年 3 月

岩本美砂子、日本における政治とリプロダクティブ・ライツ、アジア女性研究

(財・アジア女性交流・研究フォーラム) 16 号、2007 年 3 月

* Dag Stenvoll, Contraception, Abortion and State Socialism: Categories of Birth
Control and Their Political Implications 関西大学法学論集 (関西大学法学会) 54 巻 6 号、
2007 年 3 月

ダグ・ステンヴォール、避妊・人工妊娠中絶と社会主義政権 (岩本美砂子訳) 法経論叢 (三
重大学社会科学学会) 25 巻 1 号、2007 年 10 月掲載予定

(2) 口頭発表

岩本美砂子、リプロダクティブ・ライツの意義と日本の現状、国際シンポジウム「リプロ
ダクティブ・ライツ政策の国際比較 : 米・韓・日・東欧」北九州アジア女性交流研究フォー
ラム、2006 年 7 月 13 日

Dorothy E. McBride, The Struggle over Reproductive Rights in the United States,
IPSA 福岡大会、2006 年 7 月 10 日、国際シンポジウム「リプロダクティブ・ライツ政策の
国際比較 : 米・韓・日・東欧」北九州アジア女性交流研究フォーラム、2006 年 7 月 13 日、
国際シンポジウム「リプロダクティブ・ライツ政策の国際比較 : 米・韓・日・東欧」世田

谷男女共同参画センターらぶらす、2006年7月16日

ビョン ファースン Wha-Soon BYUN, The Imbalance of Sex Ratio and Reproductive Rights in Korea、IPSA 福岡大会、2006年7月10日、国際シンポジウム「リプロダクティブ・ライツ政策の国際比較 : 米・韓・日・東欧」北九州アジア女性交流研究フォーラム、2006年7月13日、国際シンポジウム「リプロダクティブ・ライツ政策の国際比較 : 米・韓・日・東欧」世田谷男女共同参画センターらぶらす、2006年7月16日

Joice Gelb コメンテーター、IPSA 福岡大会、2006年7月10日、国際シンポジウム「リプロダクティブ・ライツ政策の国際比較 : 米・韓・日・東欧」北九州アジア女性交流研究フォーラム、2006年7月13日

Elizabeth J. Cobbs、Reproductive Rights Policy and Japanese Women 国際シンポジウム「リプロダクティブ・ライツ政策の国際比較 : 米・韓・日・東欧」世田谷男女共同参画センターらぶらす、2006年7月16日

(交通事故のために7月に来日できなかった Dag Stenvoll の*印のペーパー草稿が、IPSA 福岡大会、2006年7月10日、国際シンポジウム「リプロダクティブ・ライツ政策の国際比較 : 米・韓・日・東欧」北九州アジア女性交流研究フォーラム、2006年7月13日、世田谷男女共同参画センターらぶらす、2006年7月16日で、Dorothy E. McBride および岩本美砂子によって代読された)

(3) 出版物

丸山仁・賀来健輔編著、政治変容のパーспекティブ、ミネルヴァ書房、2005年10月10日

日本女性学会ジェンダー研究会編、男女共同参画/ジェンダーフリー・バッシング :

バックラッシュへの徹底反論、明石書店、2006年6月10日

辻村みよ子監修、東北大学 21 世紀 COE 男女共同参画の法と政策 8 卷、2007年3月

辻村みよ子監修、(多様な女性とリプロダクティブ・ライツ)、東北大学 21 世紀 COE 男女共同参画の法と政策 12 卷、掲載予定

(4) その他

岩本美砂子、小泉人気「おばさん心」は使い捨て、朝日新聞、2006年9月27日

Misako IWAMOTO、Koizumi just another sweet-talking politician、International Herald Tribune/The Asahi Shimbun、Oct. 6, 2006

岩本美砂子、安倍政権を見る——女性への施策に懸念、信濃毎日、2006年10月11日など
(共同通信配信)

岩本美砂子、首相補佐官の小池百合子氏、毎日新聞夕刊、2006年10月16日

岩本美砂子、東国原英夫宮崎知事へのメッセージ、毎日新聞夕刊、2007年1月31日

も く じ

I IPSA と国際シンポジウム

p. 6～79

- 1) The Struggle over Reproductive Rights in the United States (Dorothy E. McBride)
- 2) Contraception, Abortion and State Socialism : Categories of Birth Control and Their Political Implications (Dag Stenvoll)
- 3) The Imbalance of Sex Ratio and Reproductive Rights in Korea (Byun, Wha-soon)
- 4) アメリカにおける「リプロダクティブ・ライツ」をめぐる論争
(ドロシー・E・マクブライド)
- 5) 避妊、中絶と社会主義政権 (中東欧・ロシア) ——産児制限のカテゴリー区分と、それらが政治的に意味するもの
(ダグ・ステンヴォル)
- 6) 韓国における男女比率の不均衡とリプロダクティブ・ライツ (ビョン・ファースン)

II 日本における人工妊娠中絶の実態に関する一考察——2005 年に実施したアンケートより

p. 80～p. 130

III 日本におけるリプロダクティブ・ライツの過去・今日・未来

p. 131～155

- 1) 日本における政治とリプロダクティブ・ライツ
- 2) 多様な女性とリプロダクティブ・ライツ (要約と本文)

IV アメリカと西欧におけるリプロダクティブ・ライツに関する政策の比較研究

p. 156 ～252

合衆国
オーストリア
ベルギー
カナダ
イタリア
オランダ